

	全教・枚方教職員組合 枚方市西禁野 1-1-3		 組合ホームページ
	No.2020 2026. 9. 9.	TEL 848-3300 Fax 848-3052	

枚方教組・枚方市職労 共同で枚方市と市教委に要望書 市費教職員の待遇改善、現場の困難の解消を

枚方教組と枚方市職労(枚方市職員労働組合)は、9月1日に共同で枚方市の市長部局に、市費教職員の待遇改善を求める要望書と、障害のある教職員への合理的配慮を求める要望書を提出して、要望への対応を強く求めました。要望には市教委担当者も同席しました。枚方教組、市職労合同の要望書提出は昨年に引き続き、2回目となります。

教採試験の職免適用、諸手続きのオンライン申請、 諸費用の給与引き落とし、宿泊・校外学習での府費教職員と同じ待遇を

待遇改善に関して、市費教職員が府教員採用試験等で職免適用できるようにとの要望について、枚方市と市教委の半断で可能なことから強く対応を求めました。

給食費、PTA 会費などの諸費用も市費教職員は給与引き落としができず、教頭先生が現金で徴収するなど多大な負担の解消を求めました。また、市費教職員の諸手続きも、市役所職員などはオンラインですべて対応できるのに、ほとんど紙ベースで対応せざるを得ない実態の改善。校外学習での車利用や修学旅行での食事代が支給されないことなど、府費教職員と同等の処遇となるように対応を求めました。

市長部局担当者は「市長部局が教育委員会に入り込めない」、市教委担当者は「条例で決められている」と踏み込んだ回答を避けましたが、市職労から「学校を守るため、教職員を守るため何ができるか、連携をとって、何か一つでも改善に向けて動いてほしい」と訴えました。

「障害のある教職員への人的配置を」 「誰一人取り残さない教育の実現(伏見市長)」に向け努力を

また、学校で働く障害のある教職員に対し人的配置を強く求めました。

視覚障害によって、授業や成績、事務処理等で人の配置が不可欠なのにもかかわらず、現在は大阪府も枚方市も、そのための人的な配置を制度化していません。そのため学校現場の工夫と配慮によって体制を組んでいるのが実態となっており、人的配置は不可欠と訴えました。

従来、枚方市の本庁は、「府費教職員への人的な追加配置は、府で対応すべき」との姿勢でしたが、枚方教組からは、伏見市長も「誰一人取り残さない社会の追及」「だれ一人取り残さない教育の実現」を掲げている点からも、努力してもらいたいと訴えました。

学校を支える、不可欠の市費教職員 安心して教育や学校を支える業務に向き合える、処遇改善を

市費教職員は校務員、調理員、施設管理人、留守家庭児童会に加え、SC,SSW,学校司書や支援教育・教員業務支援員、ダブルカウントの任期付き講師など多様な職種に広がり、学校教育を支えています。

これらの人々が、安心して、教育や学校業務に向き合えるように、今後とも市教委、市長部局に対して取り組みを進めていきます。

非常勤の方も含め市費教職員の皆さんも組合に加入できます、ぜひ加入して力を合わせて声を上げていきましょう。

「学校の働き方改革プラン(素案)」パブコメに(9/20まで) リアルな実態、教職員の切実な要求や声を集中しましょう 「現場の実態聞かずに、現場の問題解決できるわけがない」

パブコメで実態や現場の声を市教委、市民にも示していこう

市教委は、改定給特法にもとづく新たな「働き方改革プラン(素案)」をだし、パブコメを経て、現場の声を聴くことなしに、委員会主導で計画策定が進められようとしています。

これでは、「時間外の上限時間だけの計画」「文科省の3分類の業務だけの改革」など形だけの改革になり、多忙化の「見えない化」「時短ハラ」に陥り、先生の仕事が市教委の指示や課題をこなすことばかり優先され、本来の教師としてのやりがい、子ども・保護者との関係作りで、信頼や協力にもとづく学校づくりが切り捨てられ、教育困難、教員不足がますます深刻化してしまいます。

現場が本当に求める働き方改革実現のためにも、市教委が現場の意見を聞く取り組みがないなら、教職員からパブコメで、逆に現場の実態や教職員の声や要求を集中することで市民的にも広めていきましょう。

パブコメはだれでも提出可能、不利益扱いもなく、意見は市民に公開、市の回答も

パブリックコメントは、市民、保護者だけでなく、市街在住でも、市内勤務者、市内の関係団体所属ならだれでも提出可能です。

提出には個人名などは必要ですが、提出や内容によって不利益扱いを受けることはありません。

また、提出されたコメントは、ホームページで市民向けに公開されます(個人名や所属は公開されません)。それぞれのコメントへの、市からの回答も掲載されます。

通常パブコメは、実施自体がほとんど周知されず、コメント提出も数件になることがよくあります。逆に、コメントが多数寄せられ、市民や関係者からの関心、批判的意見が多いことが明らかになれば、市・教育委員会では対応を慎重に検討する例が多くあります。

ぜひ現場の教職員から多くのコメントを提出することで、市民的にもリアルな実態や現場の教職員の声を、市民の前に明らかにし、市教委に対応を変えさせていきましょう。

「何を書いたらいいかわからない」何をコメントしても OK のパブコメに いつもの組合アンケートに答える感覚で、職場の人にも広げましょう

ほとんどの人はパブコメの経験はないはず。しかし、市民・当事者の意見や声を反映させる法律で認められた貴重な機会です。逆に形骸化すれば、市民・当事者置き去りの施策が横行します。

「何を書いたらいいかわからない」という人も多いと思います。全く気にすることはありません。ほかのパブコメの市民コメントは、まとまっていない、盛りだくさんの内容、時には思いがふれてしまうコメントもありますが、声を届けることが重要です。

市教委の「働き方改革プラン(素案)」には、「取り組み」が「文科省の3分類を踏まえた見直しを行う」だけの、異常な提案でのパブコメです。逆に言えば、何をコメントしても OK のパブコメになっています。いつもの組合アンケートに答える感覚でコメントを提出しましょう。



← 枚方市パブリックコメント募集ページ(「働き方改革プラン(素案)」も掲載

「プラン(素案)」パブリックコメント 入力フォーム



全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです 枚方教組に加入して学校や働き方を変えていきましょう

「おねがい、おむかえにきて」 映画「ヒンド・ラジャブの声」 銃撃で家族が死に、戦車や兵士が周りに、 ガザ・少女、車に取り残され、助けを求め続けた声

今年9月4日から日本で公開になった映画。世界で何が起きているのか、武力紛争・戦争になるということはどう行くことなのか、「経済成長」「軍事力強化」で「Japan Is Back(日本を取り戻す)」と首相が息巻く日本で、本当に考えるべきことは何か、実話と映像、少女の肉声から思い知らされる映画です。

イスラエル軍の銃撃、戦車・兵士が周りに……

車の中から、助けを呼び続ける少女の声

2024年1月ガザ地区北部で家族7人で移動中の車がイスラエル軍に砲撃され、家族が命を落とす中で車に取り残された6歳の少女、ヒンド・ラジャブが電話で助けを呼び続けました。

電話を受けた赤新月社のスタッフは、数時間にわたり声をかけ続け、励まし



続けたが、救援に向かった救急隊も銃撃され2名が命を落とし近づくことができなかった。数日後の少女は遺体で収容されたとされます。

銃撃された車、約350発の銃弾が撃ち込まれたとされる。



生前のヒンド・ラジャブちゃん

映画「ヒンド・ラジャブの声」

ベネチア映画祭8冠、アカデミー賞ノミネートも、日本では……

この実際の肉声録音をもとに、チュニジア出身のカウテール・ベン・ハニア監督が映画「ヒンド・ラジャブの声」を製作。

映画には、パレスチナ出身者が俳優として出演、作品中の少女の声は実際に助けを求め続けた少女の肉声が使われています。

日本国内ではほとんど取り上げられることはない中、2025年のベネチア映画祭で8つの賞を受賞、2026年のアカデミー賞にもノミネートされるなど高い評価を受け、世界にガザの実態を訴える映画となっています。

欧米に比べて、日本でのガザ地区で起きている事態への、感覚の落差に改めて気づかされます。

平和や人間が大切にされる社会を教える、教職員として重要な映画です。

カウテール・ベン・ハニア監督

ヒンドの声を初めて聞いたとき、どうすることもできない無力感を覚えました。その感情を抱えたまま何もしていないことができなかった。彼女の声を忘れたり、目を背けるのではなく、きちんと向き合って、自分にできることをしようと思いました。私にできるのは映画を作ること。その思いが、本作を作る原動力になりました。

「今起きていることとして感じてほしい。」「実際に民衆が動けば世界を変えることができると思います。」



実際の少女の声の一部

「ネタニヤフ調書 汚職と戦争」汚職で裁かれたくないため戦争継続・拡大？ 政権を有利にするため、テロ実行のハマスをネタニヤフ首相が支援してきた？

ガザ地区はじめ周辺国、イランへの攻撃を繰り返し、とどまることを知らないイスラエルのネタニヤフ首相。実は10年前から、現職首相として捜査機関から、汚職、収賄、背任などで捜査、尋問を受け、2019年には検察から起訴を受け、裁判が始まっていた。

その中で、起きたパレスチナの武装組織ハマスによる、イスラエルへの奇襲テロ事件。

非常事態宣言で戦争を続ける限り、緊急措置で裁判が送られる中、次々周辺諸国への攻撃、侵攻を繰り返す中、アメリカ・トランプ大統領もネタニヤフ首相を制止に苦勞する状態に。

流出したネタニヤフ尋問動画像、関係者証言で映画を作成

汚職、収賄、背任。親密な関係の大企業や経営者に便宜を図る見返りに数々の莫大な報酬を受け取ってきたとして、現職首相が捜査、起訴される異常な事態。流出した千時間以上の首相自身の実際の尋問映像と関係者の証言をもとに映画が作成されています。

汚職疑惑では首相側近も逮捕され、ネタニヤフ首相にとっては極めて厳しい状況で、トランプ大統領さえ、「ネタニヤフ首相には恩赦が与えられるべき」とまで発言する状態に追い詰められていました。

目の敵のはずのハマスを、ネタニヤフが資金援助してきた疑惑も

ネタニヤフ首相「友は近くに置け、敵はもっと近くに置け」

1993年にはノルウェー、アメリカも加わり、イスラエル、パレスチナで2国家で平和共存を目指すオスロ合意が結ばれ、平和の機運が生まれ始めていました。

しかし、イスラエル国内では、あくまでこの地域一帯はユダヤ人のものと、武力での占領地域拡大を主張する右派グループが、合意に反対し続けていました。

この右派グループのリーダーとして政権の握ったネタニヤフ首相は、武力攻撃と占領地域拡大と支配強化を進め、これがパレスチナのハマスによるテロ攻撃にもつながり、さらにテロに対抗するためにと、首相の権限強化でより強硬な対応を取り続けてきました。

イスラエル国内の反首相グループや国際メディアは以前から、ネタニヤフがハマスを育成支援し、和平合意つづしを図ったと批判。2024年には、EU外相まで、イスラエルがカタール経由で武装組織ハマス創設の資金提供が行われたと言及しています。

映像中で尋問されるネタニヤフ自身が捜査官にすごみながら投げかけた言葉

「ゴッド・ファーザーのセリフを知っているか？」

『友は近くに置け、敵はもっと近くに置け』だ」

自らの権力を強化し、維持し続けるために、汚職も謀略的な政治手法も、意に介そうとしない。この指導者によって、子どもや市民、多くの人々が犠牲になり続けることが今でも繰り返されています。



北河内サマーフェスタ 9/12日(土) 13:30～ 枚方市生涯学習交流センター

「武力で平和はつukれない」元イスラエル兵 ダニー・ネフスタイさん

どなたでも参加できます。当日参加歓迎 参加費 500 円